

# 下嶽 智美さん

## 守り続けるものごと 変わっていくもの



### 小久慈焼 8代目に

久慈高校、仙台の大学を卒業後、仙台の内装業に就職。25歳くらいから、仙台から全国の物産展を歩き回り、小久慈焼を販売していました。年間30件ほどの催事を回っていたので、1年の半分は外に出ていると思います。30歳の頃に久慈に戻ってきて、経理や営業を担当していました。

ちょうどその時期は、第2・3次平成不況といわれている時期で、売り上げも減少していました。時代に合わせた商品をつくってほしいと職人と話し合いましたが、折り合いが難しかったので、自分で焼いてみようと思ったのが、小久慈焼をつくるようになったきっかけ。見様見真似で作ってみました。全く売り物にならないし、同じものが作れなかったのを思い出します。

### 県外の販路を拡大

その頃の小久慈焼の一番の売り上げは、春に開催していた陶器まつりでした。1日で大きな金額になるのですが、オークションで安売りしてし

まうので、利益が上がらず、経営的には厳しい状態でした。自分の代になってからは、規模を縮小させるとともに、東京や大阪など県外の販路を拡大しています。

### 守り続けるものごと 変わっていくもの

小久慈焼の特徴として、皆さんが思い浮かべるものは、やはり白と飴の色。久慈の粘土を使って、小久慈で焼いても赤や緑色のものは小久慈焼と気付いてくれません。もちろんデザインや季節に合わせて、さまざまな色は使うことはありますが、基本は白と飴これは伝統として、守り続けていくべきだと思います。

色とは逆に、器の形は時代に合わせて変化させなければならぬと思います。小久慈焼は普段使いの陶器。小久慈焼が200年も続いているのは、その時代時代を使う人に寄り添ってきたからです。昔と今では食文化も変化しているの、器も時代に合わせて自然と変わるものです。伝統を守りつつも、時代に合わせた、今の時代の普段使いの

陶器を作っていく必要があると思っています。

### 小久慈焼の今

今は制作から販売まで、2人でできる範囲で営業しています。県外での販売が主ですが、市内では大平園やまたたびで販売してもらっています。市内に新しくできた飲食店も小久慈焼を使ってくれています。最近SNSで、皆さんが宣伝してくれるので、若い人が買っていくことも多いです。

販売のほかには、市内の保育園や学校で陶芸教室をしています。皆さん楽しんで作ってくれますし、作品として時間をかけて完成するので、思いつきの品になります。市内の



待浜小学校で開催された陶芸教室

子どもたちに小久慈焼を知ってもらう機会にもなるので、とてもうれしいです。

### 小久慈焼のファンを増やしたい

伝統を守るのはどの職種でも大変なこと。陶芸の世界はお世辞にも大金を稼げるとはいえませんが、熱いときも、寒いときも一年中粘土を練って焼く大変な仕事です。それでも小久慈焼を残したほうがいい、残さなければならぬと思う人がいれば、伝統は守ることができる。そう思ってくれる人を増やしたいです。

6代目の後継者問題のときも、町の皆さんが小久慈焼の伝統を絶やすわけにはいかなと動いた結果、父が後継者となることができました。私の代で伝統が途絶えてしまったら、死ぬに死ねないじゃないですか(笑)。一人でも多く小久慈焼のファンが増えるよう、細々ではありますが、やることをやりたい。そして小久慈焼を継ぎたいと思う人に、引き継げる環境をしっかりと作っていきたくと思っています。

